

大学への想い



私は平成19年3月、母校飛騨市立古川中学校で教鞭を執る傍ら、働きながら学ぶ岐阜大学の大学院を修了しました。岐阜大学を卒業した後、教員生活20年目の節目にあたり、再び母校で学んだこととなります。自分としては今までにない勉強の機会を持つことができたと思っています。

大学院の講義は、高山市内のサテライト教室で受講しました。週に1日夕方18時からの毎週の講義、休日の集中講義もこの教室で受講しました。

様々な専門分野の先生方から、毎回、内容の濃い講義を提供していただいたことは、これまでの教育実践を見直すきっかけとなり、研究への足がかりとなりました。また、高山市内の講義室にいながら、岐阜大学の教室、熊本市、各務原市など遠く離れた地域で、私と同様に働きながら学んでいる大学院生と時間を共有して議論したり、集中講義による対面指導やディスカッション等の工夫された学習方法・学習環境をフルに活用し、充実した大学院生活を送ることができました。特に修士論文の研究では、『働きながら学ぶ大

学院生であっても、これだけの研究ができるのだ』という信念を実現しようと、岐阜県内・外の仲間とともに苦楽を共にしながら研究を進め、親交を深めることができたことは、お互いに教職経験を持ちながら大学院へ入学したからこそだと思います。学会に参加し、自分の研究を様々な分野の人たちに聞いていただけたことも貴重な体験でした。

働きながら学ぶ大学院を修了した今、私が実感しているのは「学ぶことに年齢は関係がない」ということです。明確な目標を持ち、やる気を出して取り組めば、いつでも学ぶことができるのです。私はこのことを身をもって経験することができました。これは、働きながら学んだからこそ、実感できたことです。

大学院修了後、現在は小学校で勤務しています。私にとって新たな教育実践の場であると同時に、学びの場でもあります。母校岐阜大学にて、大学院生として学び得た貴重な体験をもとに、今日まで支えていただいた方への感謝の念を胸に、より一層自分を高めていけるよう真摯に努力を重ねていきたいと思っています。

再び母校で学んで
— 学びに年齢は関係ない —

中津川市立
加子母小学校
教諭
倉坪

慎一